

ジニア ザハラ・シリーズ

学名: *Zinnia Marylandica*

種子粒数の目安: 400-600 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.0、また EC 値は 0.75mmhos/cm(2:1)以下が適正

播種

200 あるいは 288 穴前後のトレイサイズが最も管理しやすい。播種時はバーミキュライト等で中くらいの厚みで覆土する

ステージ 1 - 発芽には 2,3 日要する

温度: 20-22°Cが適正

光条件: 発芽時に光は不要

湿度: 子葉が発生する頃までは相対湿度を 95-97%に維持する

ステージ 2

温度: 昼間は 21-24°C、夜間は 16-18°Cが適正

光条件: ステージ 2,3 では 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで光条件を上げてよい

水分: 培地の水分は、中くらい(level 3)からやや湿潤(level 4)で維持する

肥料: レート 1(100ppm(N)以下、EC 値が 0.7ms/cm)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える。培地は、EC 値 0.7ms/cm(2:1)以下で維持する

ステージ 3

温度: 昼間は 21-24°C、夜間は 16-18°Cが適正

水分: ステージ 3,4 では培地の水分を中くらい(level 3)で維持する

肥料: レート 2(100-175ppm(N)、EC 値が 0.7-1.2ms/cm)の肥料を与える。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC 値は 0.7-1.0ms/cm (2:1)を維持する

ステージ 4

温度: 昼間は 18-21°Cが、夜間は 16-18°Cが適正

光条件: 温度条件が維持されるなら、53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで光条件を上げてよい

肥料: 上記ステージ 3 と同じ

矮化剤(PGR)

矮化剤(生長制御剤)はプラグ生産の段階では概ね不要である。もし必要であれば、播種後 10 日から 2 週で B ナインによる処理で効果が確認されている。その時期に B ナインを 1,250-2,500ppm で葉面散布する

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

鉢上げは、カットパックから 9cm、あるいは 10.5cm のポットが適当

培地(用土)

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。土壌 pH は 5.5 から 6.2 が適正、培地の初期の養分量は中庸

温度

昼間: 16-18°C

夜間: 18-21°C

光条件

健康な株に育てるため、適切な温度管理が可能であれば、できるだけ光(日照)にあてるようにする

肥料

移植の後、1 週たってからリン酸分の低い硝酸態の肥料をレート 3(175-225ppm(N)、EC 値が 1.2-1.5mmhos/cm)で与える。株の生育と培地の pH の状況を見ながら、必要に応じてアンモニア態と硝酸態とのバランスを調整する。pH は 5.8-6.2 を、また EC 値は 1.5-2.0mmhos/cm の範囲を維持する

かん水

水分が極端に多かたたり少なかつたりしないように、最適の条件を維持する。また頭上かん水は極力避ける。病気の発生を防ぐ観点からも、かん水は葉が乾いたときに手早く行うことが肝心

矮化剤(PGR)

株の生長を抑制するには、B ナインを 3,500ppm で 2 回、葉面散布すると効果がある。初回は鉢上げ後1週が目安。その後、7 日から 10 日たってから 2 回目を与える

ヨーロッパ(北西ヨーロッパ)での栽培管理

ザハラについては、北西ヨーロッパのような栽培条件であれば、矮化剤はさらに少ない投与で生産が可能である。2 回葉面散布をするのは同じだが、投与量はそれぞれ 1,600ppm で十分である

平均的な生産期間

播種から移植まで: 約 3 週(200 から 288 穴前後のトレイ)

移植から出荷(開花)まで: 春生産では 8 から 9 週、夏生産では 5 から 6 週

播種から出荷(開花)まで: 春生産では 11 から 12 週、夏生産では 8 から 9 週

※長日期において開花が早い傾向があります

病虫害について

害虫: 初期成育の段階でアブラムシが発生しやすい。また開花後はスリップスが発生しやすい

病気: 高湿度を避けハウスで密につめすぎないように管理する。このような条件では、ボトリティスやウドンコ病が発生しやすいので注意する

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤を用いる場合は、必ずガイドラインによる使用方法を遵守しましょう。当該の規定や条例のもとで、注意書きをよく読み正しく使用することが、使用者の責務です

注意点: EC 値(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、土を用いた配合では適合し得ない場合もあります。